

認定NPO法人 北海道自由が丘学園・ともに人間教育をすすめる会

(振込先:郵便局 02790-5-51893 認定NPO法人北海道自由が丘学園)

〒062-0051 札幌市豊平区月寒東1条15丁目5-11 TEL(011)858-1711 FAX(011)858-1333

URL <https://www.hokjioka.net> E-mail: codmoka@b216.blowth-net.co.jp

支援会員・寄金 3,000円 (年額)
*会員には、本通信を配布します。

INDEX

P1:巻頭言

P2:ヒューマントラスト/教育実践

普及、会費納入、まあい情報他

p3:子どもの権利集会、団体総会

p4-5:「サマーキャンプ」

p6: 週末型居場所～4-6 月企画

p7: 自然体験学習～西岡水源地

p8:エッセー/無償の愛、カレンダー他

*「チラシ」:

◆ 理科実習 魚の解剖 ◆

理科授業、月 1-2 回は実験も組立。

1 学期は解剖 2 回～今回、魚を解体
して…その後、昼食のオカズに！



『北の地に自由と共同の学校を』を読んで

認定NPO法人・理事/事務局長 滑川 大樹

この本は北海道自由が丘学園の基礎ともいえる本*で、改めてスクールの授業について考えていきたいと思います。注*1980-90年代の新教研時代に発行のブックレット。創始者達の基本的立場・柱を発信。

特に第1部は基本的な理念や目標、特色について書かれています。その理念のひとつに「子どもたちがわかるよこびを経験し、より高いものを自ら学んでいこうという教育を展開する」とありました。当スクールのカリキュラムの“やってみる科”や“探求タイム”など、生徒たちが自らテーマを設定して探求する授業は、まさにこの理念を体現している授業だと思います。

ただ、自分の受け持つ“社会”という授業に置き換えたとき、果たして理念に即しているのか考え直す必要があります。「歴史なんて学ぶ意味あるのかって思ってたけど、興味を持てるようになった」、「最近ニュースを見るようになって、家族と話すことが増えた」など、生徒から感想をもらうことはありました。生徒の記憶に定着する授業、問題を考え解決するような授業、そして自ら学んでいこうとする授業ができていのだろうか。独りよがりの授業になってはいないかを見つめ直さねばなりません。

検索すればネットやAIが瞬時に教えてくれるようになり、自らの頭で思考し探求する機会が減ってしまった今、いかに子ども達の知的好奇心を刺激できるのか、我々大人こそ従来以上に思案し提起していかなければならない時代です。

このたび、自由が丘学園は新体制となり新たなスタートを切りました。ここに通う子どもたちはもちろん、私自身も一緒になって学び、活動していきたいと改めて思います。「かけがえのない経験をした」「ここでしか味わえない学びを得た」となるように、続けて努力していきたいです。

[筆者は小中学生の教科+行事・生活サポート。今般NPO総会で事務局長就任。普及協同分野も担っていきます]